エンジニア単価情報
2015年夏
レポート

＜Webサービス系エンジニア編＞

一般社団法人日本ニアショア開発推進機構

Ver1.08

全１３
ページ

はじめに

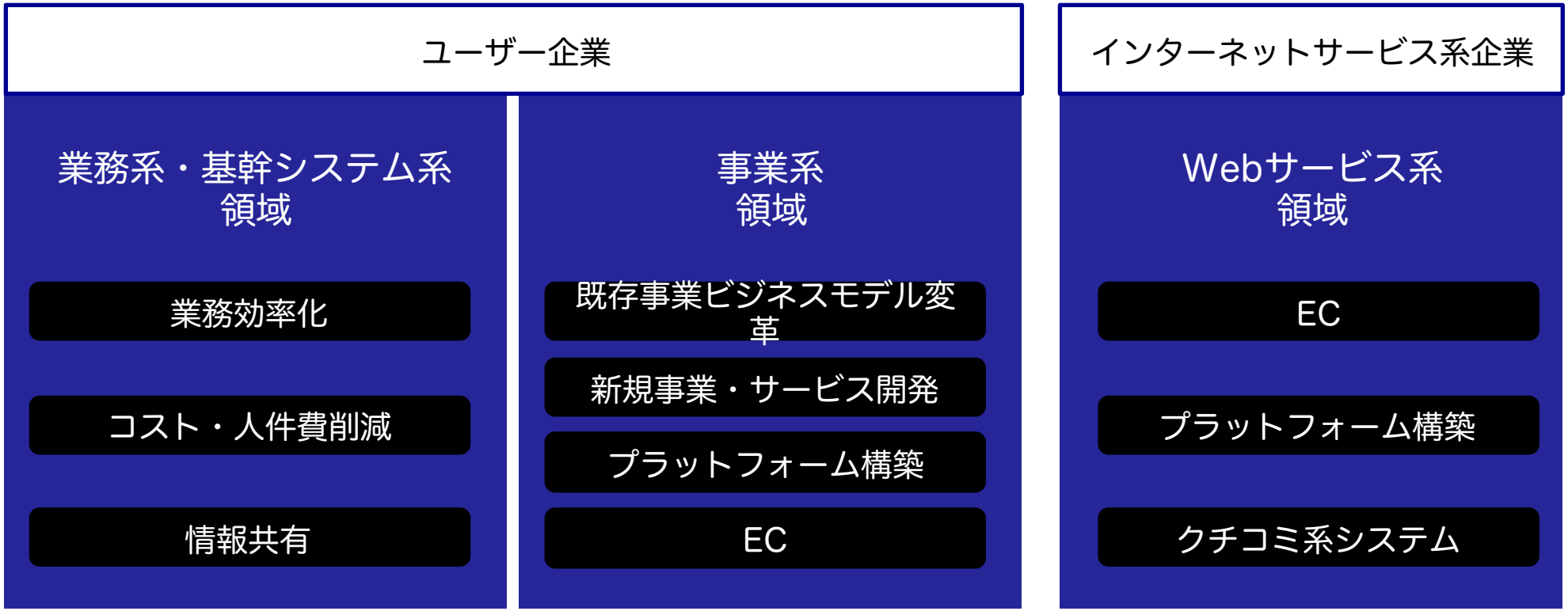
これまでのIT投資は、“業務効率化、コスト削減”を目的とした業務系・基幹系システムの構築が中心でした。

しかしながら、最近は業務系・基幹系のシステムも安定稼働し、IT投資のトレンドが、“既存事業のインターネット化”等に代表されるような売上拡大を
目標とするものに大きく変わってきております。

今回、2015年6月から8月にかけて、数十社の企業にインタビューを実施し、今後の取り組みや価格情報など興味深い点についてレポートを作成しました。
価格情報については、インタビュー先企業の規模や既存発注先企業の規模によって±15%ほどの変動幅を考慮いただければと思います。

ご活用いただければ幸いに存じます。

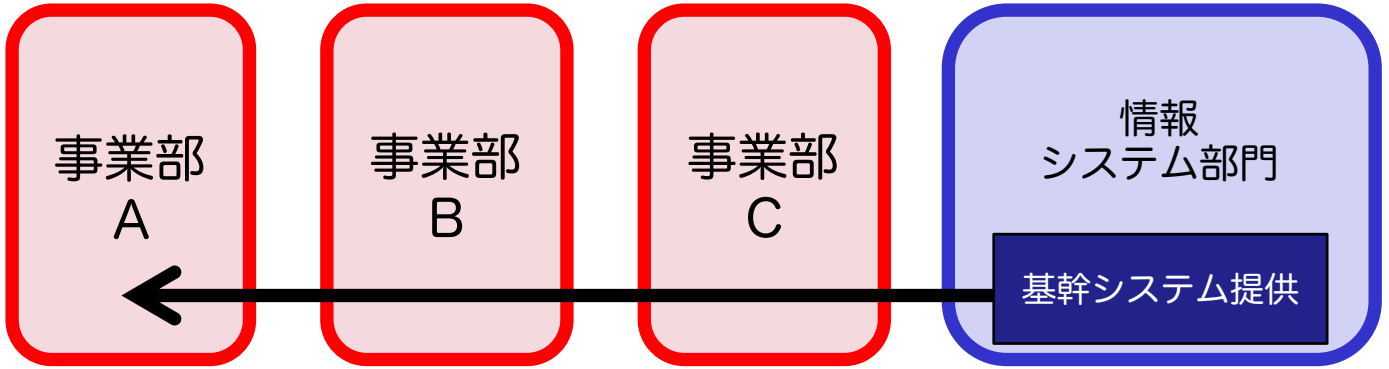
調査区分について


ユーザー企業
インターネットサービス系企業
業務系・基幹システム系領域
事業系領域
Webサービス系領域
業務効率化
コスト・人件費削減
情報共有
既存事業ビジネスモデル変革
新規事業・サービス開発
プラットフォーム構築
EC
EC
プラットフォーム構築
クチコミ系システム
会計区分：一般管理費
販売管理費・原価
原価
これまでの主領域
これからの主領域
今回の対象範囲

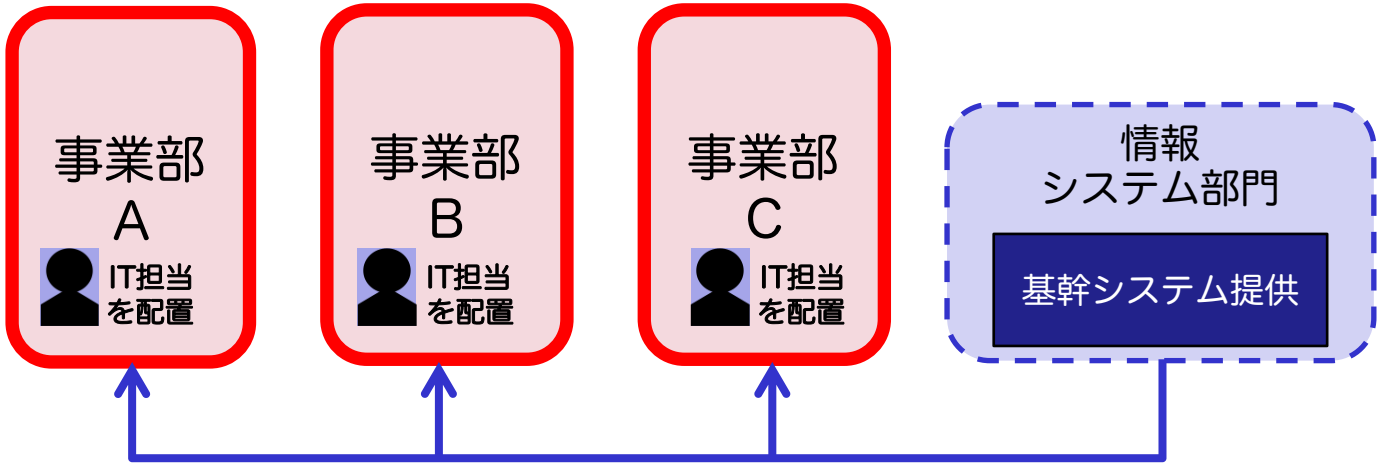
組織の変化について

事業拡大を実現させる組織体へのシフトが進行

●従来型組織構造



●事業部主体型組織構造



縮小
または再編し、
要員を再配置

エンジニア価格単価の状況

業務系・基幹系システム開発の単価は微増傾向

【市場状況サマリー】

・圧倒的なエンジニア不足ではあるが、単価への反映は微増程度

・円安によるオフショア開発メリットの低下（中国）、新興国へのシフト

・アーキテクト系職種、デベロッパ系職種の確保が困難

大きな技術的なイノベーションもなく、システム寿命に伴うリプレイス開発等が目立ち、投下コストが限定的になっている様子が伺える。

エンジニア価格単価の状況

事業系、インターネットサービス系の単価は上昇傾向。
構造自体の違いに注目する必要あり。

基幹・業務システム

主に、生産性向上や人件費削減が目的

▼

“予算の限界・天井“が存在
（ROIマイナスになる）

事業系・Webサービス系システム

機能を追加し、利便性を向上させ
ユーザーを集めれば、
ますます収益は増加する。

▼

優秀なエンジニアの確保と
開発スピードが生命線

“予算の限界・天井”の考えより
他に優先順位が存在する。

必要としているエンジニア像について

IT＋他領域の知識の組み合わせが高付加価値人材に

●大量のデータを解析し、ビジネスに活用

データサイエンティスト	必要スキル	アーキテクト＋DB＋統計・解析

●ユーザー獲得担当エンジニア

グロースハッカー	必要スキル	アーキテクト＋マーケティング

●事業をスピーディーに展開させるためのオールラウンダー

フルスタックエンジニア	必要スキル	インフラ＋アーキテクト＋WEB

●事業は、システム納品して終わりではなく、リリースしてからの運用開発が重要

DevOpsエンジニア	必要スキル	アーキテクト＋システム運用

役割別Webサービス系エンジニア単価

最近のWeb開発では複数の役割への対応が重要

【サマリー】

・マルチランゲージ対応力を求める企業が多い（Java,PHPなど）

・ひとつの専門領域より、広い対応範囲を持つエンジニアが評価される

・デザイン、マーケティングの知識を持つ人材も不足

エンジニアの“多能工化”が進行、要求事項の高まり

役割別Webサービス系エンジニア単価

●プロジェクトマネジメント系

職種	役割	領域	レベル	調達難易度	概要	標準単価(時給)	標準単価(月額)	ITSS職種
プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント(プロジェクト全体)	ハイレベル	5	高	プロジェクトの計画立案、工程管理、および外部との交渉・調整などを行う。優先順位付け、関係部門との調整、およびプロジェクト・チームが正しい目標に集中するための全般的な管理を担当する。	9,000	1,440,000	プロジェクトマネジメント
			4	高	プロジェクトの計画立案、工程管理、および外部との交渉・調整などを行う。優先順位付け、関係部門との調整、およびプロジェクト・チームが正しい目標に集中するための全般的な管理を担当する。	8,000	1,280,000	プロジェクトマネジメント
	リソース・品質マネジメント	ミドルレベル	4	中	組織の要員構成の検討やチーム編成、ベンダコントロール、外注管理等の人的リソース管理を担当する。	5,500	880,000	プロジェクトマネジメント
			3	中	組織の要員構成の検討やチーム編成、ベンダコントロール、外注管理等の人的リソース管理を担当する。	4,800	768,000	プロジェクトマネジメント

備考：
Webサービス系開発に関しては、プロジェクトマネジメントスキルのみを要求されることはほとんどない。他役割や知識が必須となる。

役割別Webサービス系エンジニア単価

●アナリスト系

アナリスト	ビジネス分析	ハイレベル	5	高	事業や業務に対する調査・分析および企画・改善提案を行う。ビジネスルールの策定やシステム化企画も実施する。	8,000	1,280,000	コンサルタント
	要件定義（システム全体）	ハイレベル	5	高	システム化に際して要求収集および要求定義をリードし、開発範囲を管理する。また要求を理解し、優先順位を調整する。システム全体（インフラ・アプリケーション）を担当する。	6,000	960,000	コンサルタント
			4	中	ユーザと開発チームのインターフェースとなって、要件の収集や調整を行う。また、チーム作業をリードする役割も担う。システム全体（インフラ・アプリケーション）を担当する。	5,500	880,000	コンサルタント
	要件定義（アプリケーション）	ミドルレベル	4	中	機能要求、シナリオ、フローや、そのほかの付随するユーザー要求を収集し、文書化する。	5,000	800,000	アプリケーションスペシャリスト
			3	中	指示に従い、ヒアリングを中心とした情報収集を行い、その文書化を行う。	4,700	752,000	アプリケーションスペシャリスト

役割別Webサービス系エンジニア単価

●ITアーキテクト系

ITアーキテクト	ソフトウェアアーキテクチャ設計（基本設計）	ハイレベル	5	高	大規模システム、またはデータ連携が複雑なシステムを対象に、ソフトウェアの構造および利用技術に責任を持って作業をリードし、ソフトウェア構造の設計、実現可能性の検証、設計指針の提示、および成果物の指示を行う。	8,000	1,280,000	ITアーキテクト
			4	中	比較的小規模なシステムを対象に、技術の選定・ソフトウェア構造の決定・設計チーム（数人程度）のリードを行う。	6,500	1,040,000	ITアーキテクト
	アプリケーション設計（詳細設計）	ミドルレベル	3	高	ソフトウェアに対する要求を、実装環境で実現するための設計作業を行う。コンポーネントの入出力設計や設計文書作成も含まれる。	5,000	800,000	アプリケーションスペシャリスト
			2	中	基本設計やアーキテクチャ方針に従って、上位者の指示のもとに、機能レベルの詳細設計（モジュール設計、クラス設計など）を行う。	4,400	704,000	アプリケーションスペシャリスト
	データベース設計	ミドルレベル	4	高	データベーステーブルの論理構造の定義や物理テーブルの設計、インデックスの定義等、データベース固有の技術要素を用いて定義する。	5,500	880,000	アプリケーションスペシャリスト
	テスト設計	ミドルレベル	3	中	必要となるテストの識別と定義および、テスト対象に求められる品質に基づくテスト結果の定義、テストデータの準備およびテストカバレッジの確認を担当する。 また、テストツール、ガイドラインの準備等、テストの実装および自動化に必要な環境と手順の作成を担当する。	5,000	800,000	アプリケーションスペシャリスト
	インフラ設計	ハイレベル	5	高	システム全体の構成および利用技術に責任を持ってリードし、システム構成の設計、実現可能性の検証、および成果物の指示と調整を行う。	5,500	880,000	ITアーキテクト

役割別Webサービス系エンジニア単価

●デベロッパ系

デベロッパ	プログラミング	ミドルレベル	3	中	特定のプログラミング言語について、高度な技術を使用した実装を行う。また、デバッグやチューニングも担当する。	4,400	704,000	ソフトウェアデベロップメント
			2	中	プログラミング言語を利用して、モジュール・ファンクション・サブルーチンの実装および単体テストを行う。	3,700	592,000	ソフトウェアデベロップメント
	テスティング	エントリレベル	2	低	テストの実装、セットアップと実行、テスト結果の収集と、エラーの分析および原因追及を担当する。	3,300	528,000	ソフトウェアデベロップメント

備考：
使用言語（Java,PHP,Ruby,Python等）にも依存。

役割別Webサービス系エンジニア単価

●Web系

Web系開発スペシャリスト	データサイエンティスト	ハイレベル	5	高	統計学やデータ分析を駆使して、膨大なデータを構造化して、ビジネスに有効な仮説立案や条件を解析結果として導きだす。	8,500	1,360,000	
	グロースハッカー	ハイレベル	5	高	プロダクトやサービスに関するマーケティングや戦略上の課題を解決し、ユーザー獲得に関して責任を負う。ABテスト実施やデザイン・機能修正等幅広い業務が存在するので、幅広い技術的知識が必要とされる。	8,000	1,280,000	
	フルスタックエンジニア	ハイレベル	5	高	通常はそれぞれに専門の技術者がいて分業されるような複数の技術分野についての知識や技能に精通し、一人でシステム開発や運用を行なうことが要求される。対象分野によって求められる技能の組み合わせ（スキルセット）は異なる。	8,000	1,280,000	
	DevOpsエンジニア	ミドルレベル	4	高	ビジネス要求に対して、スピーディに実現できるよう、開発と運用を一体化して対応できる技術スキルを保有する。	5,500	880,000	

備考：
新しい役割かつエンジニア数も少なく認知度も低いので、単価は参考価格。
実力がある方であれば数割増しでもと欲しいという意見も多数存在した。

外注活用支援サービスのご紹介

外注活用支援コンサルティングサービスご説明

ユーザー企業のIT・調達部門が持つ課題の解決は容易ではありません。

企業のIT・調達部門は多くの課題や要求事項を抱えています。

エンジニア不足の中での調達力の強化、コスト削減を目的としたオフショア・ニアショア開発の検討や発注先の見直しといったコストの見直し、派遣法改正対応、偽装請負などのコンプライアンス対応など難問が山積みですが、急がなくてはならないものばかりです。

これらの課題解決には、まず的確に現状を整理・分析し、方針を決定しなければなりませんが容易ではありません。

ニアショア機構では、多数の事例をもとに企業の外注活用全体のご支援をし、新たに有効なソーシング手段のひとつとしてニアショア開発活用をご提案しております。

唯一無二のサービスをご検討いただければ幸いです。

外注活用支援コンサルティングサービスご説明

発注コスト妥当性評価サービス　（派遣・準委任契約ITエンジニア対象）

偽装請負リスク評価サービス　（準委任契約ITエンジニア対象）

派遣法改正影響度調査サービス　（派遣契約ITエンジニア対象）

以下のような課題をお持ちの企業ご担当者様に効果的です。

・派遣法改正で自社にどれくらいの影響があるか知りたい
・派遣法改正の対応を始めたいが、やるべき事の整理ができていない
・偽装請負に対する取り組みが不十分
・偽装請負対応について理解を深めたい
・偽装請負が社内にどれくらい存在しているか把握したい
・現状の発注単価が妥当なのかわからない
・エンジニア不足の中で今後のリソース確保が不安　など

詳細はこちらからご確認いただけます。
（ http://www.nearshore.or.jp/solutions/consulting/）

ニアショア開発
活用のご紹介

ニアショア開発が注目を集める３つの理由

1

高いプロジェクト遂行力
地方のシステム開発会社は、首都圏の会社と比較して、派遣型ではなく請負開発の比率が高いのが特徴のひとつです。 そのため、組織として開発プロジェクトをモニタリングする仕組みを持っているところも多く、安定したプロジェクト遂行が可能となります。

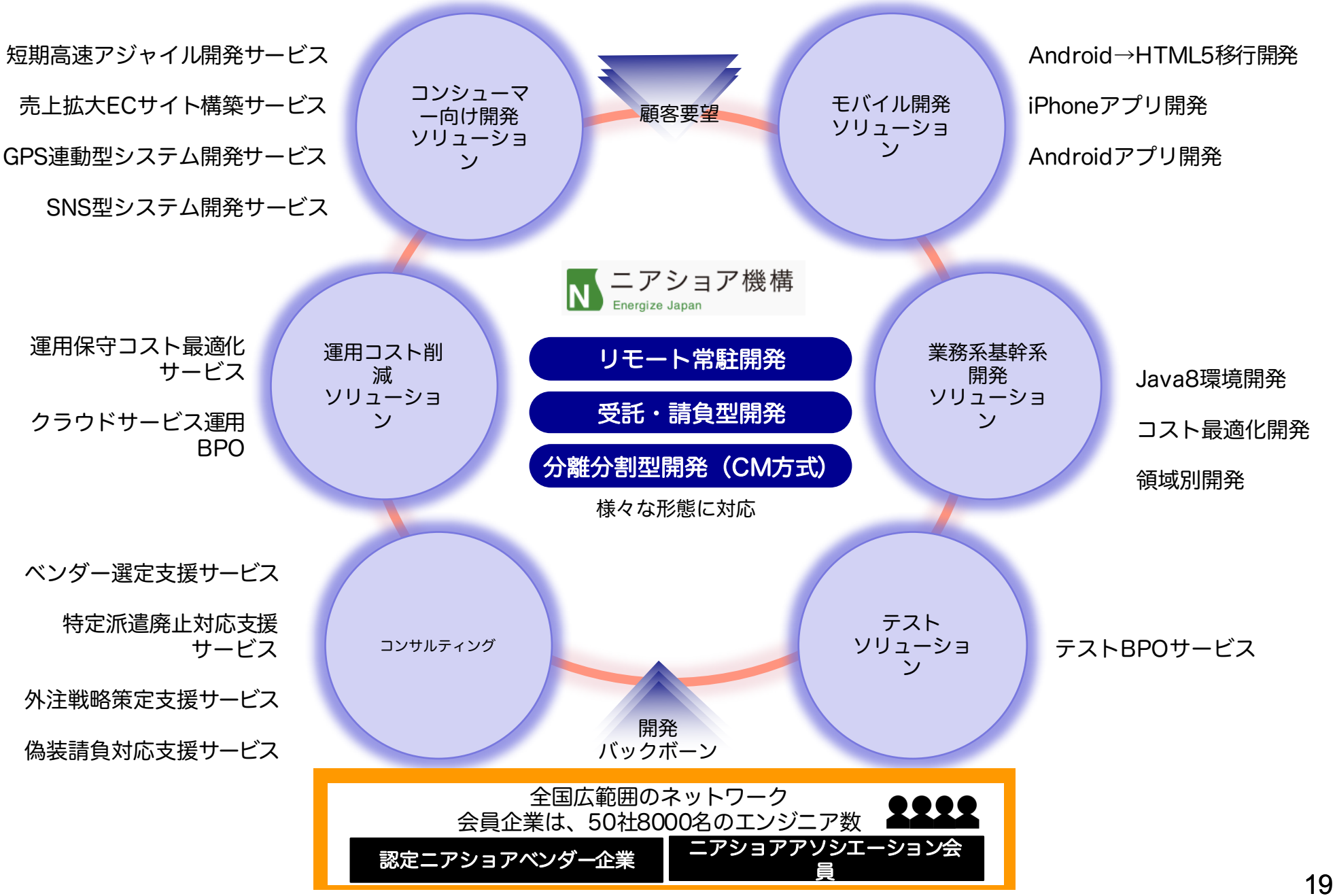
2

割安感のあるコストパフォーマンス
高いプロジェクト遂行力にもかかわらず、コストは首都圏の７０％～９０％が実現可能です。 オフショアに発注した多くの会社のコスト削減効果が２０％以内という事実を考えると、言葉の壁もないので、とても魅力がある発注手段と言えます。

3

優秀なエンジニアリソースの確保
みずほ銀行のシステム刷新、社会保障番号制度（マイナンバー制度）のシステム等の大規模システムが集中し,
エンジニアが圧倒的に不足しています。 特に首都圏の影響は深刻です。大手メーカーやＳＩベンダーの多くは上記のシステム対応に追われるため、一般事業会社はシステム投資をしたくても受託先が見つからない可能性さえ出てきます。 対応策のひとつとして、首都圏よりエンジニアの需給がひっぱくしていないニアショア開発の活用があげられます。

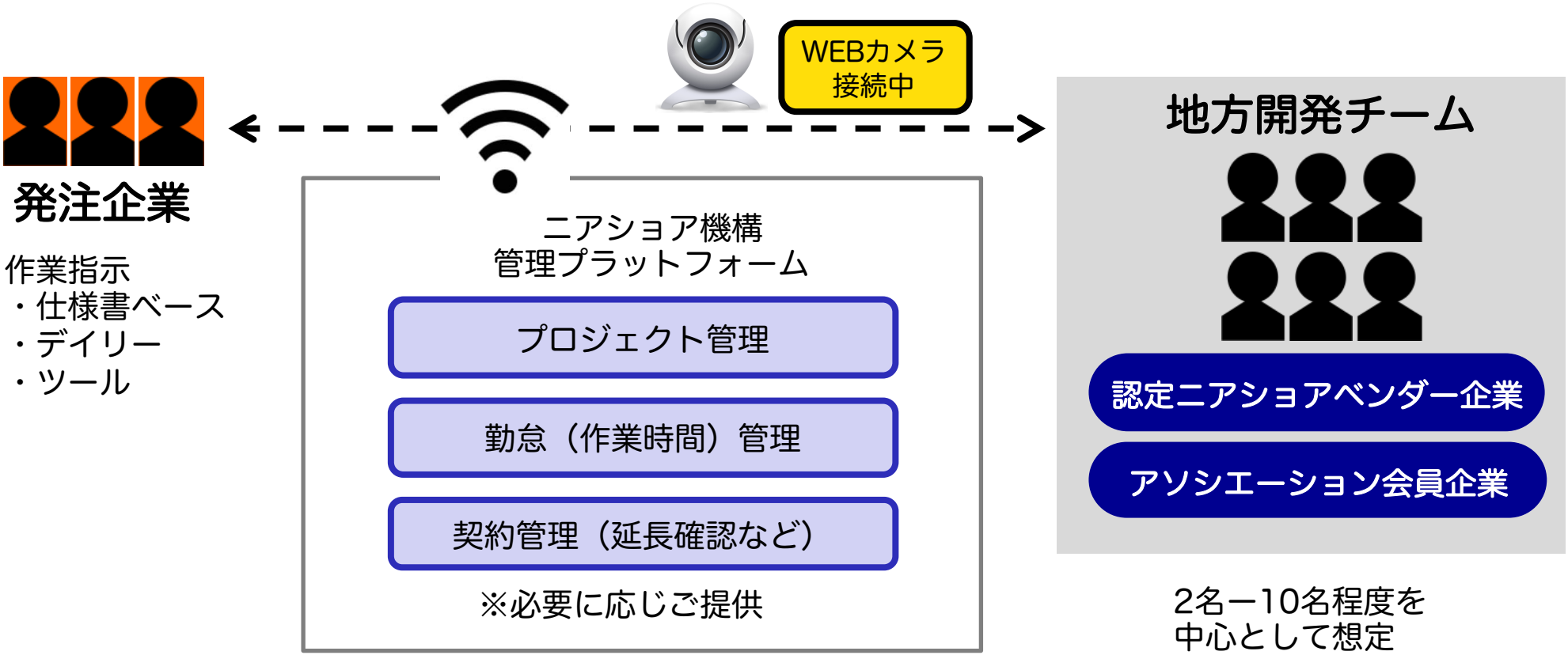
ニアショア機構：発注企業向けサービスポートフォリオ



新たな開発形態：ニアショアエンジニアリングサービスとは

**常駐開発と遜色のないコミュニケーション環境と手段を用意、
優秀な地方開発チームをベストプライスで活用いただけます。**

まるで隣にいるような感覚で作業が実現可能です！



新たな開発形態：ニアショアエンジニアリングサービス　常駐型との比較

常駐開発と遜色のないコミュニケーション環境を用意、
優秀な地方開発チームをベストプライスで活用いただけます！

項目	顧客内常駐開発 （首都圏）	ニアショア エンジニアリングサービス
コミュニケーションレベル	◎	◎ 同等の環境と手段を準備
エンジニアの募集・確保	× 圧倒的不足	◎ 機構会員ネットワーク
コスト	× 需要高により大幅上昇傾向	◎ 首都圏単価の80-90%
オフィス費（席費）	× 都内坪単価3万	◎ 地方価格：都内1/3以下
セキュリティ	◎	◎ 自在にレベル設定可能

地方システム会社が知っておかなければならない情報の発信

■ニアショアアソシエーション

nearshore association

ニアショア開発のイメージ確立と普及を目的として、2014年9月に設立された
ニアショア事業者団体です。
参加企業50社・総エンジニア数8,000名で構成されています。

・企業力を向上させる：　セミナー、勉強会の開催
・首都圏同行を知る：　　ニアショア案件情報の提供

（会費）
・入会金２万円　・年会費10万円

発注企業に安心と信頼を提供

■認定ニアショアベンダー制度



認定ニアショアベンダー制度とは、当機構が定めた認定ガイドラインに適合し、
適切なプロジェクト遂行が実施できる体制を整備している事業者を認定し、
その名称およびロゴマークを事業活動に活用いただくための制度です。

お問い合わせ

認定ニアショアベンダー制度、ニアショアアソシエーションの
詳細についてはこちらからご確認いただけます。

検索	ニアショア機構　会員制度

または
http://www.nearshore.or.jp/certification-membership/

ニアショア活用・サービスに関するお問い合わせ、
ホワイトペーパーの内容について、ご不明な点、ご質問等
ございましたら、お気軽にメール、またはお問い合わせフォームより
ご連絡ください。

お問い合わせフォーム：http://www.nearshore.or.jp/contact/



info@nearshore.or.jp